

タイトル：この夏の思い出

学校名・学年：大阪狭山市立第七小学校・4年

名前：中井 敬尊

(本文)

ぼくは、この夏、A くんに出会いました。ぼくのお母さんは長年支援学級の先生をしており、A くんはぼくのお母さんの教え子で、卒業して何年もたつので、会いに来てくれました。お母さんは、久しぶりにあう A くんとても親しげに話していましたが、ぼくは初対面だったので何を話してよいのかわかりませんでした。きんちょうしているぼくに、A くんは、「いっしょに遊ぼう。」

と話しかけてくれました。そのおかげでぼくも話すことができました。

A くんとはじめ、ぼくのゲームで遊ぶことにしました。ぼくがそのゲームのやり方を教えると、A くんは、

「わかった！」

と言って、一回でゲームをマスターしてしまいました。それをみて、めっちゃすごいなと思いました。一回きいただけで、一回見ただけで理解するってすごい才のうだなと思いました。その後、ぼくのゲームのじゅう電が切れてしまったので A くんスマホの中に入っているたいこの達人のゲームをいっしょにしました。ぼくは、たいこの達人のゲームをもっているけどそんなにうまくないので、

「教えて！」

と言うと A くんはぼくの指をもっていっしょにしてくれました。すると一番むずかしいレベルにまでたどりつくことができました。A くんは、

「ほんと A くんってすごいなあ。」

と言うと、

「ひろとくんも上手やん。」

と言ってくれました。これらのゲームを通してとても仲良くなれて楽しかったです。

ぼくは、帰りの車の中で、その話をお母さんにすると、お母さんも A くんのとくいなたいこの達人のことをしっていて、支援学級で勉強がんばったらお楽しみで、A くんが毎日やっていたことを教えてくれました。ほかにも、A くんといっしょに勉強したこと、A くんのとくいなこと、苦手なこと、いっぱいお母さんから聞きました。ぼくの知らない A くん的一面がたくさん聞けてうれしかったです。ぼくは、見た目でしょう害があるとかないとかはんだんしていたけど、A くんとの出会いを通して、色んな人と積極的に関わることも大切だなと思いました。

ぼくは、しょう来、小学校の先生になりたいと思っています。しょう害があるとかないとかで人をはんだんするのではなく、その人と関わっていきたいと思います。